

令和4年度 東京都立千早高等学校 学校経営報告

令和5年3月31日

校長 小塩 明伸

開校19年目を迎えた本年度は、引き続きのコロナ禍の中ではあったが、体育祭や千早祭（文化祭）、更には、イングリッシュキャンプや国内ではあったが修学旅行の宿泊行事も実施することができた。一方、コロナ禍が複数年に渡って経過する中での制限ある教育活動により、生徒にとっても戸惑いや不安の多い一年でもあった。

今年度、引き続きのコロナ禍での学校経営、学校運営を進めるにあたり、教職員が自らの健康にも留意しながら、きめ細かい生徒対応や教育活動に従事してくれたことに感謝したい。

令和6年度に20周年行事を控えていることを踏まえ、バージョンアップした新しい千早高校を目指し、教職員が丸となって様々な課題を「チーム千早」として迅速かつ組織的に解決できる体制を構築していく。

以下に、令和4年度の取組とその成果等について報告する。

1 今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動及び重点目標への取組と自己評価

	取 組	自己評価
学校経営 (学校運営)	<p>①東京都教育委員会の「TOKYO・スマート・スクール・プロジェクト」による「統合型校務支援システム」及び「学習支援クラウドサービス」の確実な実施に向けた校内整備を計画的に進める。</p> <p>②「Global Education Network 20」(GE-NET 20)事業で掲げた「主な取組」及び「目標値」を確実に達成するように全教職員で精力的に取り組む。</p> <p>③高大連携事業を教員の専門性や生徒の資質・能力の向上に資する具体的な取組に落とし込み、次年度に繋がるようにしていく。</p> <p>④新学習指導要領の実施を踏まえて再編成した組織編成、所掌事務、教育活動等について検証する。</p> <p>⑤学校経営が円滑に進むよう、学年内、学年間、学年分掌間などの連絡調整を確実に図り、効果的効率的な会議運営や進行管理になるようにする。</p> <p>⑥「OJT診断基準」や「執務ガイドライン」、「経営参画ガイドライン」に基づき、会議・委員会等を効果的に活用して校内OJT体制を推進するとともに、拡大分掌会の充実を図る。</p> <p>⑦新学習指導要領に基づくグランドデザインから、カリキュラム編成及び観点別評価の策定を行う。</p> <p>⑧教員の授業力向上を図るため、教科主任を中心とした各教科における人材育成、授業公開や若手教員研修を活用した教員相互による授業参観などを実施する。</p> <p>⑨「文化・スポーツ等特別推薦」での入学生の生活状況及び卒業後の進路状況を把握し、今後の在り方を検討する。</p> <p>⑩本校の特色を理解した意欲ある生徒を安定的に確保するため、募集広報活動を意図的計画的に進める。</p> <p>⑪本校の生活指導の方向性や共通認識を確認するとともに、教職員丸となった確実な実践を進める。</p> <p>⑫日常的なクリーンデスクを励行し、東京都の個人情報取扱基準を含む「千早ハンドブック（校内諸規定</p>	<p>a. 統合型校務支援システムに関する研修会の実施や採点システムの活用を促進した。さらなる活用に向けた研修会の実施に関する検討を指示している。</p> <p>b. 45分7時間授業で、進学に向けた指導の充実を図ることができた。教育課程の編成に関する議論を重ね、よりよい形にしたい。観点別評価については、教科代表者会議や校内研修において、導入の目的を達成するための、共通理解を図った。</p> <p>振り返りのための会議を実施し、次年度以降に生かすことができるよう年度初めの早い段階で教員研修を実施する。</p> <p>c. 各学年や分掌の会議、OP（企画調整会議）を60分以内で終わることができるよう目指していたが、確実に終えた回数は少なかった。一方、オンラインによるOPや職員連絡会を実施した。今後は、協議中心の場にするとともに、ペーパーレス化も視野に入れた会議にしていく。</p> <p>d. 教員一人一人の資質・能力は高いが、職層としての役割においては、個人差がある。自己申告面接等を活用して個の力を組織の力として発揮させるように育成していく。</p> <p>e. 若手教員の研究授業を中心に、教員相互の授業参観も実施した。今後は、新学習指導要領の趣旨に合わせた授業展開を図り、生徒の資質・能力を伸長させていく。</p> <p>f. HPのリニューアル及びアップデート回数の増加、学校紹介動画の配信、東部地区への中学校重点訪問、夏季休業中を中心とした全教員による中学校訪問、学校説明会の受入人数の増加等により、推薦及び学力検査において一定の入選倍率を確保することができた。今後も、安定的な倍率確保に向けて効果的な募集広報活動となるよう再構築していく。</p> <p>g. 「文化・スポーツ等特別推薦」による新たな部活動実施は叶わなかった。今後は、部活動加入率、実績</p>

	<p>集)」を活用・遵守して学校の保有する生徒の個人情報適切に管理する。また、起案については、原則電子起案とするとともに、帳票類を適切に作成し管理する。</p> <p>⑬開校20年の周年行事に向けて準備委員会を発足させる。</p>	<p>を踏まえ、在り方を検討していく。</p> <p>h. OPや職員連絡会で服務や個人情報管理の徹底は周知できている。今後も引き続き徹底を図るとともに、校内の規定を網羅した「千早ハンドブック」改訂版の早急な作成を行う。</p> <p>i. 周年行事の準備委員会を設置し、令和6年度に実施するための環境を整備した。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">学習指導</p>	<p>①各種検定試験への取組を推進するとともに、受験に向けた指導を通して、学びに向かう力や自己肯定感の醸成を図り、進路実現に繋げていく。</p> <p>②進路指導部、教科、学年とが連携を図り、一般受験及び検定試験受験、基礎学力の定着等を図るため、</p> <p>③補講・補習を確実に行う。</p> <p>④コロナ禍における学びの継続及び学びの保障の観点から、「学校×ICT（オンライン学習も含む）×⑤自宅学習」のベストミックスの取組及び、のデータベース化を進める。特に、1学年においては、生徒一人一台端末による学びを進め、より深い学びに繋がるように検証し、次年度に繋げていく。</p> <p>⑥各教科でグループワークやプレゼンテーション等を取り入れることにより、思考力や判断力、表現力を</p> <p>⑦高めるとともに、生徒の主体的対話的で深い学びを引き出していく。</p> <p>⑧全ての教科で教科横断的な取組を進める。特に、英語とビジネスはその中心的な役割を担っていく。</p> <p>⑨国語と英語の必修履修科目では、3年間を通して習熟度別の少人数授業を展開することにより、各教科の基礎力の定着や読解力の育成を図り、生徒の学力向上につなげていく。</p> <p>⑩1・2学年生徒が学習する必修履修科目について、グランドデザインを踏まえ、明確な学習目標に基づいた指導と評価を組織的・効果的に行う。</p> <p>⑪「使える英語」を楽しく学習させるため、学校設定科目「ERP（多読と発表）」の組織的な指導体制の充実を図るとともに、生徒の変容や学習の成果を具体的に検証して発展的な学習につなげる。</p> <p>⑫実社会との関わりを通じてビジネスの学習を深化させるため、企業やNPO、地域人材・資源との連携を図りながら、幅広いソーシャルビジネス等を取り入れた「千早ビジネス教育」を展開する。また、SDGsの取組を進める。</p>	<p>a. 教科横断的な取組を進めていく中で、主体的・対話的で深い学びを実現させていく。来年度から実施する「専門高校OB活用事業」を有効活用し、カリキュラム開発や探究的な学びについても、推し進めていく。</p> <p>b. 「学びに向かう力」への醸成は一定程度の成果があり、積極的に検定試験を受験する生徒も出ている。今後は、少人数による効果を検証し、生徒の個別最適化を図れる指導方法を検討する。</p> <p>c. 観点別評価について、生徒への指導に生かすことができるよう、試行錯誤を繰り返しながら、取り組みを進めてきた。次年度も、生徒の実態を合わせながら指導と評価の一体化を図っていくとともに、観点別評価の精度を上げていく。</p> <p>d. 「ERP」の指導内容及び指導方法については、本校の中核となす科目として再確認するとともに、生徒の変容や学習の成果を検証して発展的な学習につなげる。また、高大連携や体験型スペース「CHIHAYA Communication Village (CCV)」の本格実施を、生徒の英語力強化に繋げる。</p> <p>f. ビジネスにおける「不易」の部分を伝える授業を行いながらも、「流行」の部分を積極的に取り込み、意欲的に授業を進めた。特に、SDGsへの取組を本校ビジネス教育の一つの柱にすることで、時代が求める事柄を肌を感じながら、学ばせることができた。加えて、ビジネス科目の系統的な学びの体系化を教育課程に反映させることができた。今後は、高大連携や民間企業等との連携をさらに進めていく。</p> <p>g. 「一人一台端末」の活用に向け、校内研修を実施するとともに、災害や感染症などで登校できないことで、学びがとまることがないよう、様々な場面を想定し、授業を試行した。</p> <p>h. 「学びに向かう姿勢」の醸成を図るためにも、欠時数の考え方や具体的な数等について議論を始めていく。</p>
	<p><生活指導></p> <p>①グローバル人材としての基礎となるタイムマネジメントやルール・マナーを身に付けさせるため、正門指導、集会、学校行事、課外授業等を通して、基本的な生活習慣を確立させるとともに、規律ある学校文化の定着を図る。</p> <p>②コロナ禍における学校行事の進め方を検討するとともに、具体的な取組に落とし込んでいく。</p> <p>③スクールカウンセラーによる第1学年生徒の全員面</p>	<p>a. 学校全体としては、活気がありながらも落ち着いた雰囲気与生活を送ることができている。しかし、遅刻する生徒や服装等の乱れを指摘される生徒もおり、規律ある学校生活の定着までには至っていない。今後は、あらゆる教育活動を通して、保護者と連携しながら、基本的な生活習慣を確立させるとともに、身に付けるべき規律・規範等を明示し、生活指導の充実を図っていく。</p> <p>b. スクールカウンセラーによる1学年生徒全員面接</p>

	<p>接や保護者・関係諸機関との連携、教育相談委員会での生徒情報の共有等を図り、生徒の生命尊重を含め、心身共に健やかな成長を促進させる。</p> <p>〈進路指導〉</p> <p>①志を高く持たせ、将来の進路選択及び進路実現に向けて学ぶ目的を段階的に育成するため、「千早進路ロードマップ」に基づき、学年別進路セミナーや進路模擬試験、卒業生講話等を系統的・計画的に実施する。</p> <p>②生徒の多様な受験を支援し、進路決定を実現するため、小論文チームの充実を図り、全教員が横断的に</p> <p>③小論文・面接等の進路指導に関わり、分野別や学部別等の個別指導を組織的に行う。</p> <p>④進路意識を高めさせるよう、期末考査後の教育活動における「読書」の時間の効果的活用を検討する。</p>	<p>を実施した。また、HRや集会などを活用して、生命尊重やメンタルに触れた話などを行った。引き続き、あらゆる機会を通して、生徒からのサインを見逃さないようにしていく。</p> <p>c. 進路指導部が中心となり、様々な進路行事を意図的、計画的に行い、生徒や保護者への意識付けを行った。今後は、「千早ロードマップ」に代わる進路の指針「千早13ステップ」により、分掌と学年との連動を強化しながら、大学進学向上及び専門学校進学減少を進めていく。特に、基礎学力の強化、資格取得の奨励、模試や検査等の分析会の実施など、更に踏み込んだ進路指導を推進していく。また、公募制推薦や指定校推薦における校内基準を検討を始めていく。</p> <p>d. 今年度も引き続き全教員による「小論文チーム」の実施により、生徒への個別指導を行い、進路実績に貢献することができた。今後は、様々な小論文や面接等に対応できる教員の力を育成するためのプログラムを検討する。</p> <p>e. 「読書」の時間は、すべての学年で実施した。今後は、日常的に本を読む習慣をつけさせるための方策を再検討し、意図的・計画的な「読書」の時間の活用を図っていく。</p> <p>F. 今年度から設けた新たな分掌であるグローバル・リレーション部を中心に、国内外の大学とのさらなる連携やベトナム大使館からの派遣講話、海外ホテルインターンシップなど、グローバル人材の育成に取り組んだ。今後さらに、各所との結びつきを深めつつ、生徒にとって有益なプログラムの構築を図る。</p>
<p>特別活動・その他</p>	<p>①ビジネスコミュニケーション科としての個性化・特色化をより一層図るため、「英語」と「ビジネス」を中核として各教科等が様々な形で融合した教育活動を組織的に展開する。</p> <p>②世界規模の視野で物事を考え、地域の視点で行動する能力を育成するため、地域や関係諸機関、SPA保護者の会、人材バンク等と連携し、「グローバル」な視点での教育活動を継続する。</p> <p>③部活動や特別活動の取組が高まるように、年度当初からの創意工夫のある内容を生徒に提示していく。</p> <p>④「知」「徳」「体」のバランスが取れ、異文化理解や日本の伝統文化への理解を図り、「おもてなし教育」</p> <p>⑤を推進し、「アクティブプラン to 2020ー総合的な子供の基礎体力向上方策（第3次推進計画）ー」に基づき、「栄養・運動・休養（健康三原則）」を旨とし、朝食摂取率の改善・向上を図り、体力合計点を都平均値まで近づける。</p>	<p>a. 教科横断的及び教科融合的な取組は、積極的に実施している科目もあれば、もう一步という科目もあった。今後は、新学習指導要領を踏まえ、教科横断的な取組を進めていく中で、主体的・対話的で深い学びを実現させていく。</p> <p>b. コロナ禍で取組が限定的であったり、実施することが困難な状況ではあったりしたが、その中でも豊島区や企業との連携を通して、SDGsの視点も視野に入れた社会貢献を行うことができた。今後は、新たな取組を取り入れながら更に深化させていく。</p> <p>c. 異文化交流を通して東京オリンピック・パラリンピック大会のレガシーとしての異文化理解や日本の伝統文化への理解を深めることができた。また、体力テストは、実施した2、3学年は男女とも都平均値より下回っている。今後は、生活全般の見直しをさせるとともに、体育の授業は勿論、部活動への加入の促進などを行い、体育的な取組をこれまで以上に進め、都平均値を上回るようにする。</p>

(2) 数値目標の達成状況

	項目	目標 ※()は昨年度	実績
入学時	①推薦入試倍率	3.0倍以上 (2.50倍)	1.96倍
	②学力検査倍率	1.5倍以上 (1.51倍)	1.30倍
在学时	③一般需要費のセンター執行割合	100% (97.9%)	98.4%
	④生徒による授業評価の満足度	90%以上 (90.4%)	85.7%
	⑤家庭等での学習時間	50分以上 (36分)	33分
	⑥教育相談の肯定的評価	80%以上 (60.0%)	60.0%
	⑦部活動加入率	80%以上 (75.6%)	69.9%
	⑧夏季英国研修参加者	20名以上 (0名) (未実施)	17名
	⑨実用英語検定準2級以上受験者	300名以上 (353名)	407人
	⑩クラス1日当たり遅刻者数	1人以下 (1.4人)	2.72人
	⑪全商簿記検定3級以上合格者	200名以上 (170名)	172名
卒業時	①進路決定率	100% (95.0%)	91.7%

2 数値で見る学校経営 (過去5年間)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
入選倍率	推薦	2.59倍	3.00倍	2.51倍	3.35倍	2.50倍	1.96倍
	学力	1.03倍	1.33倍	1.33倍	1.45倍	1.51倍	1.30倍
	中学校長会調査	0.94倍	1.18倍	0.96倍	1.27倍	1.24倍	1.04倍
進路別卒業生数	大学	122名 (60.7%)	113名 (57.1%)	124名 (62.0%)	143名 (70.4%)	126名 (65.3%)	
	短大	8名 (4.0%)	10名 (5.1%)	7名 (3.5%)	11名 (5.4%)	4名 (2.1%)	
	専門学校	43名 (21.4%)	51名 (25.8%)	52名 (26.0%)	27名 (13.3%)	32名 (16.6%)	
	就職	2名 (1.0%)	7名 (3.5%)	3名 (3.5%)	5名 (2.5%)	2名 (1.0%)	
	その他	26名 (12.9%)	17名 (8.5%)	14名 (7.0%)	10名 (5.0%)	29名 (15.0%)	
	計	201名	198名	200名	203名	193名	
検定受験者・合格者	英検準2級以上受験者	323名	263名	292名	353名	407名	
	英検準1級	0名	0名	4名	2名	6名	
	英検2級	50名	29名	32名	34名	48名	
	英検準2級	58名	53名	56名	61名	42名	
	英検準2級以上取得卒業生	115名	117名	104名	117名	95名	
	全商簿記1級	18名	10名	17名	5名	2名	
文化祭来場者		2,198名	2,359名	1,985名	0名(未実施)	0名(校内)	
学校図書館貸出冊数		1,832冊	1,568冊	1,227冊	538冊	900冊	
生徒による授業評価(満足度)		87.3%	85.4%	83.6%	86.3%	85.7%	